

人間活動理論研究センター 新しい教育システムのモデルづくり

ニュースクール『「食」を楽しもう 食楽プロジェクト』を開校

～カレーなどの身近な料理を材料に、栄養から農業・水産業、海外交流まで～

学校外の家庭、専門家・生産者、社会団体などの協働により「活動の学校」としてのモデルづくり

期間：2006年4月～12月 参加児童：吹田市立山手小学校の4～6年生15人

関西大学人間活動理論研究センター（センター長：山住勝広・文学部教授）では、4月から12月の9カ月間にわたり、吹田市立山手小学校の4年生から6年生の児童15人が参加する放課後教育活動・ニュースクール『「食」を楽しもう 食^{しょく}楽プロジェクト』を開校します。

1回目のニュースクールは、4月12日（水）の午後2時から、千里山キャンパスの以文館2階 人間活動理論研究センター「CHAT プロジェクト・インキュベーション・ラボ」で行われます。

学習時間は、学校の授業が終わった放課後の毎週水曜日午後2時から午後4時（学校行事、夏休み、祝日を除く）と、期間中の5回程度の土曜日を予定しています。

このニュースクールは、平成17年度の文部科学省学術フロンティア推進事業に選定された人間活動理論研究センターの研究活動のひとつ「社会変化の担い手としての学校 - 学校と学校外のアクター間での生産的協働のモデル - 」として実施するものです。

「食」をテーマに身近な料理について、栄養の基礎や魚市場見学、農業体験、各国の食文化の調査、パソコンを使った作品づくりと発表、メールやウェブを活用した学校、家庭、専門家・生産者とのネットワークづくり、海外（客員教授）との交流まで、大学生とともに実践していきます。

ニュースクールは、放課後教育活動として、学校外の家庭、専門家・生産者、社会団体といった多様な仕事や組織、コミュニティの横断的な協働によって子どもの学習に積極的に介入し、旧来の枠を超えて幅広く子どもの成長を支援していく新しい教育システムと学校の活動形態を開発することを目的にしています。

子どもたちが自発性や創造性、社会性を育めるように「暗記の学校」を「活動の学校」へとつくりかえていくモデルとなることを目指します。

今回実施するニュースクールでの学習方針は、

食の楽しみを見直すこと

食のために、自分でできることを知ること

コンピュータを有効活用した作品づくりと発表、ネットワークづくり

海外との交流

生産者への訪問と体験学習

栽培、栄養の基礎知識について学習すること

となっており、神戸スローフード協会の協力により栄養士や栄養学の専門家、生産者などと協働しながら、学習を支援していきます。

また、学習内容は、カレーやイタリアンなどの身近な料理について、栄養や食材の農業体験を通して、実際の料理づくりを実践するほか、9月にはセンターの海外客員教授の来日時に発表会を実施します。

こうした学習方針と学習内容により、子どもの潜在的な自発性や創造性、社会性を育むための新しい教育システムのあり方を研究していきます。

<ニュースクール 放課後教育活動の実践>

放課後教育活動の実践を通し、大学、小学校、学校外の専門家、家庭、地域の間での生産的協働実践をモデル化し、現実の生活活動と発展的にネットワークしていく子どもの学習を概念化します。「ニュースクール」と名づけたこの放課後教育活動の開発は、大学、小学校、学校外の専門家集団、社会団体、家庭、地域の間での「境界領域の活動」を通じた教育実践の新たな形態の創造、ということが出来ます。「知識の循環的生産」を担う「ネットワーク組織」という意味において、学校の新しい形態を見出すことができると考えています。

ニュースクール『「食」を楽しもう ^{しゅくがく}食楽プロジェクト』の主な実施概要

参加者 : 吹田市立山手小学校の4年生～6年生の児童 15人

期 間 : 2006年4月～12月

時 間 : 毎週水曜日 午後2時～午後4時(学校行事、夏休み、祝日を除く)

魚市場見学、農作業体験、クッキングで期間中5回程度、土曜日の活動あり

場 所 : 関西大学 千里山キャンパス 以文館 2階

人間活動理論研究センター CHAT プロジェクト・インキュベーション・ラボ

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35

(阪急電鉄「関大前」駅下車 北出口から徒歩約10分)

【この件に関するお問合せ先】

関西大学 総合企画室広報課 / 鶴丸、北谷

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 TEL:06-6368-0075 FAX:06-6368-1266

<http://www.kansai-u.ac.jp>

活動予定

	活動予定	備考
4月	説明会、顔合わせ	
	栄養の基礎学習(栄養学の元教授)、栽培するものの決定	センターで栽培を始める
5月	各自、我が家のカレーの発表を紙面で考える。見学会(魚市場)。PC基本操作確認後、パワーポイントで発表できるように練習として、「我が家のカレー」紹介作品作り。	栽培観察記録をつける、管理栄養士や生産者にメールで質問、ウェブで交流、農園で植え付け、など。
	作品発表会	
6月	「各国のカレーを調べよう」。班ごとに担当する国を決める。調べる。班ごとにレシピを決めて、PC紹介作品作り。	
	「外国のカレー」紹介作品発表(班ごと)	
	農業体験	
7月	班ごとに作るカレーを、各班ごとに話し合う。	
	買い物 下準備	
	カレー大会(服部緑地バーベキュー場)	
8月	(夏休み)	
9月	後期活動導入日。パソコンを使って前期の活動記録作品作りに入る。	センターで栽培を始める。
	海外客員教授向け発表会準備として、前期の活動記録作品作り、挨拶練習、プレゼント作り。	
	海外客員教授向け発表会	
10月	栄養の基礎学習(管理栄養士)	栽培観察記録をつける、管理栄養士や生産者にメールで質問、ウェブで交流、農園で収穫。
	PCパワーポイントでパーティー料理班ごとにレシピ作品作り(イタリアン)。うち1回は農園で収穫。	
11月	作品発表会	栽培した物の収穫
	各班打ち合わせ、進行打ち合わせ、買い物	
12月	クリスマスパーティー(山手小学校家庭科教室)	

人間活動理論センターについて

人間活動理論研究センター(*Center for Human Activity Theory* : 略称 CHAT) は、2005年4月、教育の研究・開発、人間活動の発達へ、革新的な学習の実践からアプローチする国際的な研究教育拠点として、関西大学に設立されました。

CHAT は、2005 - 2009年、文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業「学術フロンティア推進事業」に選定され、共同研究プロジェクト「革新的学習と教育システム開発の国際共同研究 - 人間活動理論の創成 - 」を展開します。

人間の教育・学習・発達における世界的なリーディング・センターとなっているヘルシンキ大学(フィンランド)、バース大学(イギリス)、カリフォルニア大学サンディエゴ校(アメリカ)をはじめ、国内外の大学や研究機関、研究者と緊密かつ組織的な協力関係を結んでいます。